

「上映会」の時間構造を調整するスマホいじり

ー活動移行の相互行為分析ー

千田 真緒(千葉大学大学院生) 岡部 大介(東京都市大学) 伝 康晴(千葉大学)

1. 背景と目的

本稿では、アイドルなどのファンが集まり、自宅やカラオケボックスで映像鑑賞する「上映会」において、スマートフォン(スマホ)がどのように扱われ、会話とともに利用されているのかを分析する。

上映会は、参加者が映像を鑑賞することを体験する場である。そこでは、上映会という共通(共同)の体験を通して、上映会という「共通の時間」を紡いでいる。そのような共通の時間を共有していると互いに認識している場合、それは共通の時間(体験)の「構造」をなんらかの形で調整しあっている、と言えるかもしれない。そうであれば、日常会話だけではなく、上映会においても個々のスマホいじりは逸脱行為とみなされやすい。しかし、千田ら(2025)が述べるように日常会話におけるスマホいじりは、公的な共有物や会話の間を埋めるものとして扱われている。本稿の分析においても、上映会でなされるスマホ使用が、共同活動つまり共通(共同)の体験となっている様子が観察された。

これまでの「上映会における映像を用いた相互行為」に係る先行研究においては、1つの映像を複数人で鑑賞する場面が扱われてきた。そこでは、関心の少しずつ異なる参加者どうしによる「注意のあり方の交換」によって、「映像に対する注意の解像度を上げていく過程」として上映会が描かれている(細馬, 2018;2020 など)。ただし本研究のデータでは、テレビに投影された1つの映像を複数人で観ながら、一方で個々人が異なる情報を確認したり探索したりするためにスマホを扱う場面が見られた。

また、日常的な人と人工物のインタラクションはこれまで分析対象となってきたが(Mantere, 2022 など)、複数人での上映会も、人工物使用に焦点化した分析が可能な興味深い場面のひとつである。日常会話におけるスマホいじりだけではなく、上映会というファン活動のさなかに行なわれるスマホいじりに着目することは、ファン活動の一環とされる上映会そのものや、ファンどうしの注意のあり方の交換(細馬, 2018)の議論を発展することに繋がるかもしれない。

これらの背景のもと、本研究では「同一の映像への注意のあり方」である上映会と「個々のスマホいじりによる注意のあり方」であるスマホ使用のそれぞれの活動の移行に着目し、スマホとともにどのように映像鑑賞体験の時間をつくりあげているのかを検討する。

2. 方法

本研究は2通りの方法でデータ収集を行なった。1つ目は、2人以上のファンが集まり、各アーティストの映像を鑑賞する様子を3データ撮影した。A大学の倫理委員会の承認を経てデータ収集がなされ、撮影対象者には調査目的を説明し、同意を得た。2つ目は、第一著者の友人が撮影したデータである。2人のアイドルファンが集まり、映像鑑賞する様子を8データ撮影した。1つ目の方法同様、調査目的を説明、同意を得た上で、データ分析を行なった。

これらの映像を、マルチモーダル相互行為分析の手法で分析した。映像分析ソフト ELAN にて、「発話」と「スマホに関連する行為」に注釈をつけた。「スマホに関連する行為」は、スマホに手が触れたと観察できるところを開始とし、手から離れたと観察できるところを終了とした。トランスクリプトの記号は、西阪他 (2008)、Mondada (2018) を参照した¹。

3. 結果と考察

3.1 事例1: ラップバトル

¹ トランスクリプトの記号は以下の通り。「[」は発話の重複点、「:]」は音の引き延ばし、「°言葉°」は音が小さい点、「>言葉<」はスピードが極端に速い点、「<言葉>」はスピードが極端に遅い点、「言葉」は音が強い点、「h」は吸気音、「h」は呼気音、「=」は発話の密着、「(0.00)」は沈黙区間の秒数、「↑」は音調の極端な上がり、(言葉)は聞き取りが不確定な箇所を示す。「#」は図の位置、「\$」はAの身体の変化点、「*」はB/Lの身体の変化点、「+」はC/Rの身体の変化点、「>>」は行為が事例の前から継続している、「->>」は行為が事例の後も継続する、「->L.n」は行為がn行目まで継続することを示す。

事例1(図1)では、中学校からの同級生3人(A,B,C)がAの自宅に集まり、テレビでYouTubeを流しながら、韓国のラッパー(BOBBY:バビ)に関する動画を観ている。Aは韓国のラッパーに詳しく、たびたび観ている動画に関する知識を語る。事例1は、現在再生されている動画(SHOW ME THE MONEY)について、BとCが知らない知識をAが語る場面である。Aが語る知識とは、バビ(韓国アイドルグループiKONのラップ担当、ソロラッパー)が、ナムジュン(韓国アイドルグループBTSのラップ担当、ソロラッパー)に対して皮肉めいたことをラップで言い、それにナムジュンもラップで返答したというものである。また、ナムジュンの活動名であるRMは、ラップモンスターの略である。

Aは、現在観ている動画について何かを思い出したことを声に出し、新たな話題として提供する(001行目)。その後思い出した内容について語る(002,005,007行目)。BとCはAの語る知識について、知らないことを示す(004,008行目)。その間に、観ていた動画が終了したため、Aはリモコンを取り(007行目)、動画を一時停止させようとする。少なくともAは、すぐに次の動画を観始めることはせず、上映会を一旦停止させ、知識の思い出し活動へと移行することを志向している。BとCの反応から、Aは自分の持っている知識をBとCが知らないかどうかを再び確認し、直前に観ていた動画ではなかった可能性に言及する(009行目)。CはAから語られた知識に基づいて「これ」が指すものがラップモンスター(ナムジュン)であることをAに確認する(011行目)。AはCの発話を承認し(012行目)、Bもそのことについて反応する(013行目)。Aはさらに知識を詳細に説明する(014,017,020,022,024,026,029行目)。Aの知識に対し、BとCは再び知らないことを示す(030,031行目)。Aは、直前にCが「知らない」と答えたことに対して、再確認する(033行目)。その後Aは、BとCに対して、Aの語る知識が事実と合っているかどうかを調べるように促す(036行目)。ここで上映会という共同活動から、知識の思い出し活動、さらにはそれに伴うスマホでの探索活動へと移行する。そしてBは床に置いていたスマホに手を伸ばし、同時にCもBに調べることを一任する(038行目)。Bがスマホでの探索を開始し、Aが事例前に語っていた知識を再び繰り返す(040,041,050~055行目)。「ショミ」(040行目)は、「SHOW ME THE MONEY」というラップのオーディション番組である。本稿には記載していないが、Bが調べている間、Aは右手に持っているリモコンで、YouTubeのサムネイルが表示されている画面から次の動画を選択し、次に観る動画の準備をしている。

Bは自身のスマホで、Aの知識にたどり着いたことを示し(060行目)、調べたことを読みあげ始める(063行目)。このとき、Aはそれまで右手に持っていたテレビのリモコンを机の上に置く。Aはテレビで映像を鑑賞することから離脱することを示している。Bの発話に対して、Aが話していた「年末とかにやるさ おっかい音楽番組」(026行目)は、「MAMA」(毎年年末に開催されるK-POPの授賞式)であることに思い当たる(064行目)。ナムジュンからバビへのラップでの返答が、MAMAで行われたのか再度確認しつつ(066,068行目)、Aは納得せず、語りを再度繰り返す(075,077行目)。その間、Aはサムネイル表示されている次の動画が、サムネイルのまま自動再生されたことから、机上のリモコンを操作し、動画が再生されないようにYouTubeのホーム画面に戻る(070,071行目)。再びリモコンから手を離し、再び映像を鑑賞することから離脱することを示す(078行目)。

Bはスマホで何か分かったことを声に出し(108行目)、AがBの調べたことを共有するように促す(110行目)。Bは読みあげるが(112~116行目)、その途中でAは、自分の語る知識とは違うことを示す(118行目)。ここでCもスマホに手を伸ばし、スマホで調べ始める(120行目)。Bが続きの内容を読みあげると(120行目)、AはBがすべて読む前に内容を当て、Bの調べたことが既知であることを示す(122,124行目)。BもAの知識を承認する(125行目)。約1分後、BとCではAの調べたいことに辿り着くことができず、A自身がスマホで調べ始める(175行目)。断片の後、40秒後に、Aは自分が話題として提供した知識に関して調べたことを声に出し、BとCに共有する。

事例1では、Aの話題提供によって、主要関与(Goffman, 1963)が徐々に上映会からスマホいじりへと移り始めていた。参与者全員がスマホをいじり、活動内容を共有することによって、共同活動が映像鑑賞からスマホでの探索活動へと変化していた。また、トランスクリプトには記載していないものの、事例1で探索活動が行われた際には、参与者はテレビだけではなく、都度スマホでも動画を鑑賞していた。スマホいじりは、探索のために用いられることもあれば、それ自体が映像鑑賞の媒体となることもある。

3.2 事例2：推し決め

事例2(図2)では、中学校の同級生2人(L,R)が、Lの自宅に集まり、年末テレビで生放送しているアイドル(SnowMan)のライブ映像を観ている。事例2の1分ほど前、テレビがパフォーマンスからトークへと移り、LとRはテレビのトークに対して反応を示していた。以下は、その後の場面である。事例2はテレビの音声も入っているが、トランスクリプトには記載していない。

001 A	°あれ°これじゃないっけ?	063 B	[SM AMA MAMAで:: =
002	あの::ナムジュンのこと言ったの	A	->\$右手でリモコンを机上に置く
003	(0.19)	064 A	=あ MAMAか
004 C	ふ:::ん	065	(0.16)
005 A	あの:::なんだったけ俺はなんか	066 A	MAMAで
006	(0.87)	067	(0.19)
007 A	モンス\$ターとか言わな くても なんか上手いんだ[ぜみたいな	068 A	返答きたんだ[っけ?
A	\$右手で机上のリモコンを取る->L.055	069 B	[うん
008 B		070	(1.05)\$ (0.70)
009 A	え知らない?あれこれじゃないっけ?	A	\$右手で机上のリモコンを操作する
010	(0.22)	071 A	ちょっとこれはちゃ\$んと聴かないとダメだ
011 C	ラップモンスター?	A	\$右手を離す
012 A	そうそうそうぞ[う	072	(1.53)
013 B	[へ:::	073 B	°これか°
014 A	モンスターなんかつげなくとも俺はなんかできるみたいなのを=	074	(0.25)
015 C	=°あ;°	075 A	ね なんか皮肉って うわああ\$
016	(0.64)	A	\$右手で机上のリモコンを取り操作する->L.078
017 A	>ちょっと<皮肉ったんだよね	076	(0.97)
018 B	[へ::↑:::	077 A	なんか皮肉った気がすんだけ[ど
019 C	[あ↑:::	078 B	[B\$T::
020 A	[で:: なん-	A	->\$右手で机上にリモコンを置く
021	(0.91)		((約20秒/29行省略))
022 A	かの	108 B	あ:::
023	(0.65)	109	(0.19)
024 A	そのでっかいやつ-あの	110 A	なんか言ってない?
025	(1.73)	111	(2.99)
026 A	年末とかにやるさ おきき音楽番組[で	112 B	MAMAのステージでバビが
027 B	[うん	113	(0.35)
028	(0.49)	114 B	ハンビン
029 A	ナムジュンもそれに返-し[た気がすんだよね	115	(2.11)
030 B	[へ:::~:::	116 B	ジコさんミノさん
031 C	(知らなかった)	117	(0.19)
032	(0.07)	118 A	いやそれは::+>だって<ショミじゃん
033 A	え知らない?	C_phone	+両手でスマホを取り、左手も添える
034	(0.05)		*両手でスマホいじりを始める->>
035 C	う[ん		[>°ググるググ[る°<
036 A	[いやちょっと見てみて たぶ- たぶん		[ショミ かなんか(で)
037	あ- ちゃんとあ[*るはずだから	039 B	
038 C	[*ググれグ*グれ:::	040 A	
B_phone	*右手でスマホを取り、左手も添える	041	皮肉った気がすんだよねバビちゃんが
			((約20秒/18行省略))
		060 B	あ:::これか
		061	(0.64)
		062 C	[ナムさん

図1 事例1のトランスクリプト

SnowManのメンバーの1人が「ここまで前半」であったことを述べると、Lはその情報を受け止めながら、スマホいじりを始める(001行目)。鼻歌を歌いながらRもスマホいじりを始める(002, 003行目)。LはRの鼻歌に対して反応する(004, 007行目)。Rは、Lのスマホに対する独り言かのような発話(010行目)に聞き返しを行う(012行目)。Lは何かを見たことを報告しながら(014行目)、指示詞「あれ」によって、その「何か」を説明する後続発話を投射する(林, 2008)。Lの後続発話は聞き取れないものの(016行目)、Rのその次の発話から、「あれ」によって指示された「何か」は、なんらかのセトリ(曲のセトリリスト)であることが分かる(018行目)。第一著者の友人であるLによれば、このときSnowManが事前にSNSにあげていた生放送のセトリを見ていたという。このことから、ここまでのLのスマホいじりは上映会に関するものである。一方で、Rは韓国のアイドル名をあげ、Lに写真を見せる(032行目)。Rは上映会とは関連しないスマホいじりをしていることがわかる。もともとLとRはTwitterで新人の韓国アイドルを探しており、Rはその話題をあげている。Lもまた、上映会に関するスマホいじりから、関連のない韓国アイドルについて調べることに移行する(062~081行目)。RもLが情報提供するたびに反応する(067, 075, 079, 083行目)。2人はテレビに時折反応しながらも、新人韓国アイドルの「推し決め」活動が続ける(099行目)。LとRは互いのスマホの画面を見せ合いながら、アイドルが知っている俳優に似ていることを話す(220~224行目)。テレビが、トークからパフォーマンスに場面が転換した約20秒後、Lはテレビについて言及する(226行目)。Rは片手にスマホを持ちながらも、視線をテレビに移し、Lとともに上映会が再開する。

事例2では、LとRが個人のスマホいじりから、スマホの画面を見せ合いながら「推し決め」をするという共同活動に移行していた。Lは上映会に関するスマホいじりから始まり、Rのスマホいじりの内容が共有されたことを契機に(032行目)、Rとともに推しを決める活動に関するスマホ使用に移行していた。また、本稿では紙面の都合上、省略しているものの、LとRはスマホの活動も行いながら、テレビで新情報(ミュージックビデオが新しく出ることや主題歌になること)が報告された際には、テレビに向かって祝福の言葉やメンバーの動作に対するツッコミを入れていた。スマホに主要関与(Goffman, 1963)を向けながらも、テレビにも反応を示すことで、上映会の場合であることは互いに共有されていることがうかがえる。

001 L	前半なんだ	((約30秒/19行省略))	
L_phone	>>左手でスマホいじり->L.220	062 L	どこの事務所?知らない
002	(0.68)+(0.06)	063	初めてのさ::アイドルグループだよ?事務所
R_phone	+左手を伸ばす	064	(0.17)
003 R	+((鼻歌))	065 R	ええ?
R_phone	+左手でスマホを持ち上げ、両手でスマホいじりを始める->L.032	066	(0.70)
004 L	なん(だっけ)もっかい	067 R	元々何人°なの°?
005	(0.06)	068	(0.47)
006 R	((鼻歌))	069 L	グレート
007 L	hhhな(h)んだっけこれ	070	(0.56)
008 R	.h聞いたことある? ((鼻歌))	071 L	グー
009	(0.34)	072	(0.49)
010 L	°やば°	073 L	<グレート>グレートエン- エンターテイメント
011	(0.26)	074	(0.33)
012 R	なあに?	075 R	ん:::
013	(4.26)	076	(0.55)
014 L	あれ 見ちゃった	077 L	で:俳優:?
015	(0.40)	078	(0.78)
016 L	()	079 R	へ:::
017	(1.93)	080	(0.85)
018 R	セッソーリー	081 L	フォロー し- してる俳優が三人いる
((約30秒/13行省略))		082	(0.34)
032 R	ひゃ:めっちゃこれ-とか ユンギホ#	083 R	ふーん
R_phone	+左手でLに画面を見せる	((約30秒/16行省略))	
fig	#fig2	099 R	誰推したいかわかんない
033	(0.45)+(1.45)	((約2分15秒/120行省略))	
R_phone	+スマホいじりを再開する	220 L	こ*れめっちゃ似てる
034 L	でもやっぱさ:::	L_phone	*左手でRに画面を見せる->L.222
035 R	[うん	221	(0.10)
036	(0.06)	222 R	う*んそうバクボゴミに似てるよ
037 L	ウーちゃん にも見えるんだよね:::	L_phone	->*スマホいじりを再開する->>
038 R	[う:ん	223 L	ボゴミ hhhボゴミ
039	(1.98)	224 R	ボゴミhhhh+.hh
040 L	えでも本当なんかぱつと見ジファンくん じゃない?	R_gaze	+テレビ->>
041	(0.37)	225	(0.06)
042 R	ジファンくんね	226 L	あなんか(h)始まって (h)

図2 事例2のトランスクリプト

4. おわりに

映像データの微視的な相互行為分析の結果、スマホいじりと上映会、そして会話というそれぞれの活動を行き来している様子が観察された。事例1では上映会からスマホいじりへの活動移行が明確に観察された。上映会の最中にスマホで調べる話題が提供され、上映会に関連したスマホいじりが始められていた。一方、事例2では上映会と推し決めという複数の活動が並行して行なわれていた。事例1同様、スマホは探索活動のために使用されているが、推しを決めるために文章を読み上げるのではなく、画像や動画を共有していた。また、ここでは事例として挙げていないものの、上映会を始めた直後には、SNSにあげるためにテレビで流している映像をスマホで撮影していたり、参加者が上映会をする様子を自ら撮影したりしていた。どちらの事例においても、スマホ使用が共同活動となり、上映会という共通(共同)の時間の構造に関わっていた。こうした映像鑑賞とともにシームレスに移行するスマホ使用の技法は、ファン活動の一環である上映会における歓びの実現に係る問題となる。

謝辞 本研究は JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム(J24HJ00001)の支援を受けたものです。本研究の分析は、早稲田大学身体行為論ゼミの皆さまにアドバイスをいただきました。

参考文献

- 千田真緒・岡部大介・伝康晴・市野順子 (2025). 大学生の会話におけるスマホいじりの技法：大学のカフェテリアでの相互行為分析 認知科学, 32(2)
- Goffman, E. (1963). *Behavior in public places: Notes on the social organization of gatherings*. The Free Press.
- 林誠 (2008). 相互行為の資源としての投射と文法：指示詞「あれ」の行為投射の用法をめぐって 特集「相互行為における言語使用：会話データを用いた研究」 社会言語科学, 10(2), 16-28. https://doi.org/10.19024/jajls.10.2_16
- 細馬宏通 (2018). 映像を指し示す：やりとりのもたらすメディア理解 世界思想編集部(編) 世界思想 45(pp. 91-96) 世界思想社
- 細馬宏通 (2020). 再現行為とコ系指示語の「いま」性：自身の再現を指し示す権利 定延 利之(編) 発話の権利 (pp. 81-103) ひつじ書房
- Mantere, E. (2022). Smartphone moves: How changes in embodied configuration with one's smartphone adjust conversational engagement. *Social Sciences*, 11(5). <https://doi.org/10.3390/socsci11050219>
- Mondada, L. (2018). Multiple temporalities of language and body in Interaction: Challenges for transcribing multimodality. *Research on Language and Social Interaction*, 51(1), 85-106. <https://doi.org/10.1080/08351813.2018.1413878>
- 西阪仰・串田秀也・熊谷智子 (2008). 特集「相互行為における言語使用：会話データを用いた研究」について 社会言語科学, 10(2), 13-15. https://doi.org/10.19024/jajls.10.2_13